

広 報

'91. 6. 8

旭混声合唱団

No. 29

『海鳥の詩』のこと

第一曲 「オロロン鳥」……断崖の岩の上にとまり、黙々と海を見るオロロン鳥
孤独な漂泊の思いと彼方へのあこがれ。

第二曲 「エトピリカ」……霧の中をましくらに飛ぶ不思議な鳥エトピリカ。
その狂熱的なひたむきさ。りんりんとは鳴り、今もまたエトピリカは
一心不乱に飛翔する。

第三曲 「海 鷗」……じつと うずくまる海鷗、あかく冷たくうねる寒流
は磯に砕けて、その流れは行方もしれない。鷗は風や潮騒
の音をきいているのだろうか。

第四曲 「北の 海鳥」……きらめく北の海を飛ぶ海鳥たち。風雪をものとも
せず 生と死のゆれ動くさなかなを、カーブに飛ぶ海鳥たちへ
の讃歌。この組曲の終曲である。

逆境の奇跡なまでに厳しい自然の中で生きねばならぬ鳥の哀歓が、まるで古代
の悲歌のような荘重さと哀愁さで歌い上げられている。—— 歌われているの
は海鳥たちであるが、詩人の眼は明らかに人間に照り返されている。
我々を共感と内省へと誘うのである—— 広瀬 量平 (歌集より抜粋)

《 練 習 日 日 程 》

6月 8日(土) 19時~21時 旭丘公民館	7月 6日(土) 19時~21時 旭丘公民館
15日(土) 19時~21時 "	13日(土) 19時~21時 "
22日(土) 19時~21時 "	21日(日) 14時~16時30分 "
30日(日) 14時~16時30分 <u>本地原公民館</u>	27日(土) 19時~21時 <u>本地原公民館</u>

注: 6月30日(日)と7月27日(土)の会場は本地原公民館です。

海鳥の詩に関して 音程の不安心の方は遠慮なく技術委員、もしくは
パートマネージャーに 1部相談下さい。

技術: 秋田 松次 (テナー) 伊ト美和子 (S) 中畑ナズ子 (A) 松本恵美子 (A)
合瀬 弘正 (T) 平田 孝一 (B)

≡ アグアヨと金沢の子供達による音楽演奏会 ≡

日時 8月10日(土) 1時頃 入場無料
 場所 あさひのホール (300名収容)
 出演者 幼児園児～中学生 (約30名)
 曲目 メキシコの曲、アメリカの曲 その他
 主催 旭混声合唱団

アグアヨ・ホセレイス氏の横顔

- ・メキシコ市生れ、メキシコ国立大学にて作曲法を学ぶ
- ・国立コンセルバトリウムにてフランシスコ・サウランに師事しオーケストラ指揮を学ぶ
- ・オランダ・デルフト音楽学校にてピエール・ヴァン・ハウエに師事、音楽教育の新しいメソッドを学ぶ
- ・バルセロナ、コンセルバトリウムにて、エンリケ・リボに師事、声楽を学ぶ
- ・モスクワ音楽院では基礎音楽教育と運動教育を学ぶ
- ・ザルツブルグ・オルファ、ブタペスト・フランツ等で音楽教育学、ソルタン・コダーイ合唱メソッド等、中広く研究
- ・1987年来日、現在金沢市に於て「AGUAYO-INSTITUT」を中心に活動のかたわら、高校教育もつづけている

バーベキュー大会の御案内

↑
 ビール 8月10日(土) 18時～
 濁池にて 飲んで 食べて 歌って 踊ろう!!
 ひよとしたら アグアヨ氏と一緒に語りあえるかも……

≡ 照喜丸一男とピアノトリオの夕べ ≡

日時 10月5日(土) 6時30分
 場所 あさひのホール (300名収容)
 伴奏 石川ひとみ

第7回瀬戸合唱フェスティバル

今年は19団体に参加いたします。我々の出演は8番目で「13時10分」からです。我々のすぐ後に昨年演奏会で一緒に踊った「あけぼの」合唱団、の方々が歌われます。満足のいく演奏をしましょう!!